

レーザー学会産業賞「奨励賞」受賞



共焦点走査型 ダイオードレーザー検眼鏡 Mirante



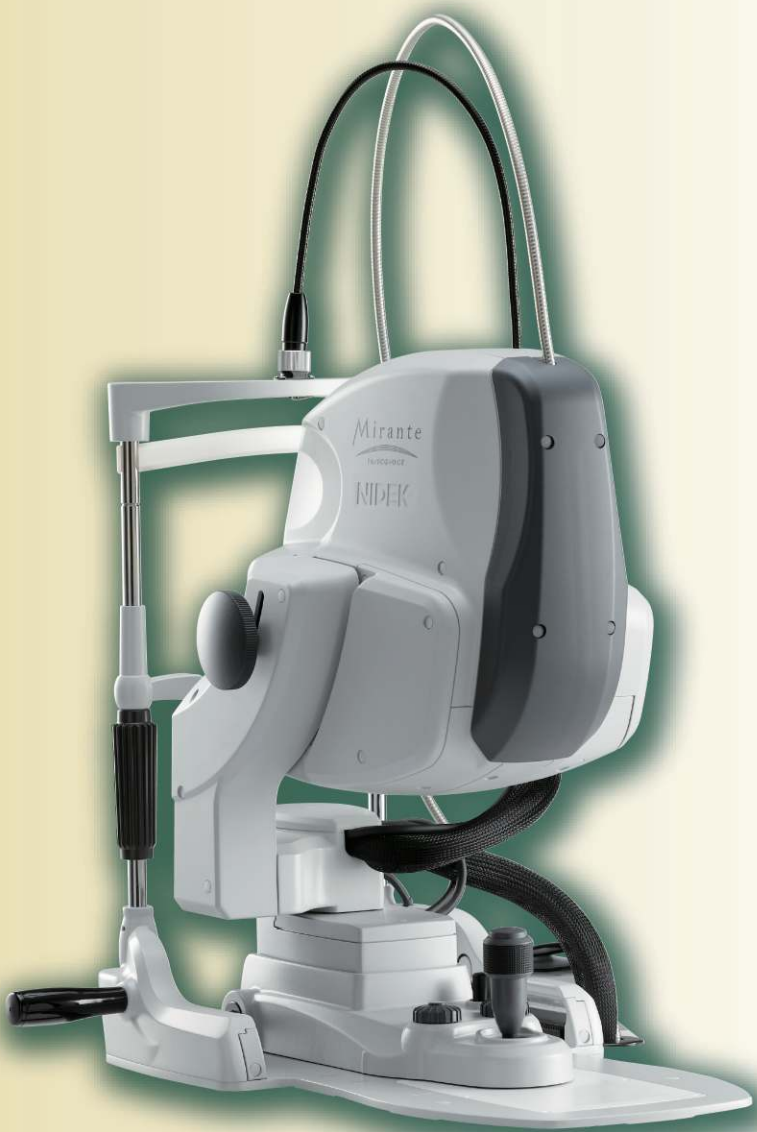
株式会社ニデック

製品の特長、用途

共焦点走査型ダイオードレーザー検眼鏡Miranteは眼底検査を目的として微弱なレーザー光を用いて撮影する「Scanning Laser Ophthalmoscope (SLO)」と、「Super Luminescent Diode (SLD)」光源を用いて網膜断層像を撮影する「Optical Coherence Tomography (OCT)」の両方を組み合わせ、高画質・高精細に眼底撮影を行う装置です。

MiranteのSLO検査では、被検眼への眩しさが少ない近赤外レーザー(790nm)で眼底の位置合わせを行い、赤・緑・青(488nm、532nm、670nm)の3色のレーザー光を同時にスキャナにより走査し、眼底からの反射光を3つのAvalanche Photo Diode (APD)により同時に受光し、画像化することにより、1670万画素(4096×4096ピクセル)のカラーSLO撮影を行います。また、オプションの広角アダプタを取り付けることにより、眼内角 Φ 163°の広範囲を撮影することができます。また、血管に造影剤を注入し、青、近赤外レーザー光を用いた蛍光造影撮影を行うことができます。

従来から、眼底検査はキセノンフラッシュ光を用い、一眼レフなどのデジタルカメラで撮影する眼底カメラが一般的ですが、Miranteは共焦点走査方式を用いることにより、各レーザー光の網膜組織深達度の差から、疾患の病変部を深さ方向からも特定します。また、共焦点方式は白内障などの中間透光体の影響も受けにくく、撮影成功率の向上を実現しました。加えて画角の広角化により、周辺網膜裂孔やなどの微小病変を捉えることで、様々な眼疾患の診断に貢献致します。



Mirante

